令和 8 年度第 1 回特別史跡大坂城跡整備推進会議
議事要旨

１．開催日時

令和８年７月 30 日（木）14 時～16 時

２．開催場所

大阪城パークセンター　2 階　講堂

３．出席者

【メンバー】北野氏、谷氏、中嶋氏、仁木氏、弘本氏、丸山氏

【オブザーバー】大阪府教育庁文化財保護課

大阪城パークマネジメント株式会社

【事務局】経済戦略局観光部　牧部長、跡部大阪城天守閣館長、金藏課長、西浦課長代理、松原係長、平尾係長

建設局公園緑化部公園課　房課長、伯井課長代理、上西窪係長、槲田係長

建設局公園緑化部緑化課　石田課長代理、諸岡係長

教育委員会事務局総務部文化財保護課　鈴木課長、宮本副主幹、佐藤主任

４．議事

（１）令和８～９年度における特別史跡大坂城跡整備推進会議の進め方

（２）短期整備事業計画の進捗状況等について

（３）管理運営に係る取り組みの進捗状況について

（４）次期短期整備事業計画（素案）について

（５）次期管理運営に係る取り組みについて

５．議事要旨

（１）令和８～９年における特別史跡大坂城跡整備推進会議の進め方

【事務局より】

本会議の今後の進め方について説明。

会議の開催期間が令和 9 年 7 月末までとなり、その間に本会議を含めて 3 回の会議を開催する予定とする。

会議では、現行の短期整備計画等の進捗状況を報告するとともに、次期短期整備事業計画等（案）の作成に向けて議論を進めていく。

【メンバーの主な意見】
無し

（２）短期整備事業計画の進捗状況等について
【事務局より】
・短期整備事業計画の進捗状況、今後予定について説明。
・このうち①豊臣期石垣公開施設整備、⑤徳川期石垣の現況調査、⑲内堀北東部水敲き石垣の修復、⑥一番櫓南雁木の修復、⑦玉造門西雁木の修復、⑨旧第四師団司令部庁舎の改修、⑩通信環境の整備、⑭極楽橋ライトアップ、⑯特別史跡標識、説明版の設置、⑱大手口における園内情報の発信の 10 事業について詳細説明を行った。

【メンバーの主な意見】
① 豊臣期石垣公開施設整備
・石垣の管理はデータの蓄積に加えて、カビ等が出た際のメンテナンス方法についても早急に固めて行く必要がある。
・ガイダンスルームとシアタールームで上映される映像はとても石垣への興味を引くものであるため、来館してもらうための色々な工夫を継続的に取り組んでいただきたい。
・特別史跡大坂城跡において、天守閣以外もＰＲの仕方が重要で、豊臣石垣館もその一つになると思う。
・ツアー客は時間が限られていて、当初から天守閣しか来館できないケースもあるため、そういう人たちへの来館につながるＰＲも必要である。
・豊臣石垣館はキャパシティも限られているため、集客数だけに拘らず、大阪城の深い歴史を学べる特別な場所として位置付け、大阪城の巡り方の拠点として活用していくことも考えられる。
・豊臣石垣館は昨年度に開館したばかりであるため、今後の課題にはなるが、再来館につながる動機付けが弱いため、リピーター確保の仕掛けを検討されたい。

（３）管理運営に係る取り組みについて
【事務局より】
・管理運営に係る取り組みについて、進捗状況、今後予定について説明。
・このうち①現存する歴史的建造物の維持管理計画、②乾櫓等の公開、③旧第四司令部庁舎の文化財登録、④植栽管理計画、⑧災害時に必要となる情報の周知の５事業について詳細説明を行った。

【メンバーの主な意見】

④植栽管理計画について

・台風時に倒木した場合、根返りにより石垣を損傷するおそれがあるなど、緊急度の高い樹木については、植栽管理計画の策定後に対応するのではなく、同計画とは別に優先して取り組む必要があるのではないか。

・あわせて、植栽管理も補助事業として活用できるよう、植栽管理計画を適切に策定する必要があると考える。

・城郭史跡にふさわしい樹木管理を進めるため、例えば、紀州御殿では日本庭園的な管理を行い、また、本丸周辺ではクロマツの樹形を考慮して剪定する管理を行うなど、美しい風致空間を作るという視点を持って取り組んでいただきたい。

⑦城内の回遊性向上等について

・これまで色々なことに取り組んでおられるので、各事業の実施後に、得られた効果を把握することや、その事業の評価を行うことが重要である。それが、今後の事業の改善につながると思う。

⑧災害情報の周知について

・報告のあった防災アプリがダウンロードできる機能を持った観光案内板の設置については、インバウンドの方にとっては心強い情報システムだと思われる。

・広大な公園内に点在する来園者に対する避難行動に効果的な情報提供についても検討し、防災計画や避難誘導に活かしてもらいたい。

（４）次期短期整備事業計画（素案）について

【事務局より】

・特別史跡大坂城跡整備基本計画にて、令和 10 年度からおよそ 20 年間で取り組む、中長期整備事業計画として位置づけているものの中から、次期短期（令和 10 年度から令和 14 年度まで）に取り組んでいく事業について、事務局案を説明。

【メンバーの主な意見】

❺歴史的建造物等の耐震化事業について

・現在は石垣の調査・整備が中心となっているが、櫓や門、近代建築などの歴史的建造物（重要文化財や未指定の建物も含む）についても、建造物の専門家とよく相談し、耐震化の優先順位などを今後詰めていく必要がある。

❼徳川期井戸の整備について

・令和 8 年 6 月工事でスケジュールが設定されているが、公開にあたっての復元方法だけではなく、サイン、導線などのストーリーも大事であり、整備方法には検討事項も多いことから、スケジュールを見直していただきたい。

・適宜委員に諮りながら進めていく必要がある。

⓱サインの整理・更新について

・鏡石のように史跡と案内パネルが被っている場所もあるため、更新時は設置場所についても改善されたい。

・更新時は、サインの説明内容、大きさ、種類などについて、専門家にチェックしてもらうなど慎重に検討する必要がある。サイン計画はサインに関する専門家に意見を聞きながら検討していく必要があると考える。

〇その他

・本丸御殿跡、紀州御殿跡の発掘調査と遺構の顕在化については、大阪城の本丸に位置するものであり、目立つ場所でもあることから早期に取り組む必要があるのではないか。

・著名な造園家（椎原兵市氏）が大阪市公園課長時代に大阪城公園の設計に携わったことなど、近代における功績についても、顕在化させることを検討する必要がある。

・いろいろなご意見があると思うが、優先順位を付けて取り組んでいくため、次期短期計画の項目については、もう少し精緻な検討が必要と考える。

（５）次期管理運営に係る取り組みについて

【事務局より】

・次期管理運営に係る取り組み（令和 10 年度から令和 14 年度まで）として取り組んでいく事業について、事務局案を説明。

【メンバーの主な意見】

無し

以上